Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

風野瓢箪

民俗学　通信授業課題１

女人講中と不動信仰について考察する

茨城県つくばみらい市板橋に清安山不動院願成寺(1)（以下、「板橋不動院」という。）に木彫の白犬一対（以下、「白犬」と言う。）(写真１)が奉納されている。その白犬の縁起を端緒に女人講中と不動信仰について調査した結果、かつては女人講中と不動信仰は深く関わっていたが、近年は異なった形で、各地人が安産・子育ての寺として信仰を続けていることがわかった。

最初に、白犬の縁起について、不動院住職下村清智(2)氏（以下、「下村住職」という。）によると「江戸の昔、山王新田（現つくばみらい市）で難産の婦人多く親子共に死に至るものもあって子供を身籠もると皆不安な毎日を送るようになった。ある夜、名主の夢枕に雌雄の白い犬が現れ、我れは板橋不動の使いなり、女人講中揃って不動尊に参詣し護摩祈祷をなせば、難産の苦しみを救わんとのお告げがあった。　中略　不動尊の使いである白い犬一対奉納したところ、以後当村内で難産で苦しむ者一人もなく以来板橋不動さまを別名お犬不動尊と呼ぶ」(3)とのことである。

このことから、白犬は江戸時代に山王新田の女人講中の人たちが奉納したことがわかった。

次に、女人講中と不動院の関係について下村住職に聞いたところ、「安産の祈願にお不動様の掛け軸を不動院から受けて行き、毎月 28 日の縁日に集まって掛け軸を掛け、ご真言を唱えお祈りすることが、不動講。女人講中とは、参拝する女性の集まり。地区に嫁さんが来ると先輩方が講中に加入を勧め、入らないとその地区に馴染めない。嫁さんは講中に誘われ、初めて外出を許されるので、女性たちの楽しみの一つでもあった。」また、「ご本尊をご開帳する正月 28 日と秋の 11 月 28 日の大祭日に世話人が中心となり、各地区の女性たちを誘って、お不動様に参拝する。この人たちが女人講中であり、今では女性も会社勤めが多く、集まることが困難になり、解散する女人講中も多い。昔は、一升講とも言われ、（米びつというのは嫁に来たばかりから自由になる財源であった。）一升の米に昔は拾銭、十円とかを載せて会費に集め、お米を炊いて食事をしたり、縁日には参拝者に昼食を炊き出したりした。」という。

このことから、板橋不動院の不動信仰と女人講中は、近年まで女性たちの信仰と同時に楽しみや親睦の場であったと考える。

さらに、板橋不動院本堂に数多く残されている女人講中が奉納した絵馬の一つ(写真 2)から、女人講中を調べてみた。絵馬には「奉納　大正九年旧拾月廿八日　稲敷郡馴柴村大字南中島」(4)、発起人「櫻井せき」他８名と賛成人「櫻井とよ」他 23 名の氏名（女性）が書かれている。また、31 人の女性たちが不動明王に手を合わせる姿が描かれていることから、「馴柴村」（現竜ヶ崎市）の女人講中による奉納と考える。

また、竜ヶ崎地区の女人講をまとめた「女人講における「聖」と「俗」」(5)14 頁左段４行目～10 行目に「お産だというと、講中から借りてきたお不動様の掛け軸を箱から出して掛け、蝋燭を立て火が消えるまでに生まれるようにとお願いをした。」、「最後に預かった人が、正月に伊奈町の板橋のお不動様に行き、そのお金でお札を頂いてくる。」とあることから、竜ヶ崎地区の女人講中が板橋不動院に参拝していたこと、また、「近世における利根川流域の女人講によせて」(6)から、女人講中の歴史は古く、18 世紀中葉の利根川流域の諸藩（土浦藩・淀藩・桜藩など）の人口増加政策を背景に活発に展開したことがわかった。

板橋不動院には白犬の他にも安産子育てを願う多くの奉納物(写真 3-8)があり、新しい奉納物は女人講中によるものではない。このことから、現代では形態を変えて、茨城県南を中心に各地の人が、安産・子育ての寺として信仰していると考える。

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

これまで述べたように、白犬は女人講中の人たちが奉納したものであり、板橋不動院を中心とした不動信仰と女人講中は、近年まで各地区の女性たちの信仰と同時に親睦の役割を果たしていた。
また、女人講中の奉納した絵馬から、竜ヶ崎地区の女人講中が、板橋不動院に参拝していたことがわかり、女人講は18世紀中葉の人口増加政策を背景に活発に展開したことがわかった。
白犬の由来には「婦人が子供を産み育てることは、古来より現在、未来、永劫の定め」「その喜びの反面生まれ出る子のため、母の苦しみも変わらない」とあり、医学や科学が発達した現代でも安産や子育てを願う不動信仰は、女人講中に代わり、若い夫妻や個人での不動信仰に引き継がれるものと考える。

＜引用文献・URL＞
(1)板橋不動院（http://www.city.tsukubamirai.lg.jp/bunka/13.htm）
(2)下村清智　不動院30世住職　79歳
(3)板橋不動尊白犬の由来
(4)稲敷郡馴柴村（http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/view.php?pageId=1946）
(5)「女人講における「聖」と「俗」–茨城県南地域の事例から–」佐々木美智子、他著　茨城県立医療大学紀要 9, 11-19, 2004-03
(6)「近世における利根川流域の女人講によせて」西海賢二　地方史研究335　第58巻第5号19-22,2008-10
調査年月日　平成22年12月19日、23日

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

風野瓢箪

(写真1)板橋不尊院白犬

山王新田の女人講中による木彫の白犬は、本堂入り口に置かれている。今でも、数年に一度塗り替えるときには、山王新田の人たちに伺いをたてるとのことである。

(写真2)女人講中絵馬

奉納
　大正九年旧拾月廿八日
　稲敷郡馴柴村大字南中島

発起人
　櫻井せき、櫻井たき、櫻井わか、
　櫻井てつ、鴻巣しげ、櫻井まつ、
　石川きよ、櫻井せい、

賛成人
　櫻井とよ、櫻井以よ、櫻井ゆき、
　　中島こと、櫻井しげ、松島きん、
　櫻井かね、櫻井こと、櫻井くに、
　　椎名みね、東郷みね、東郷せい、
　松島わか、川村あき、中島英子、
　　宮久保きく、櫻井たけ、中島たか、
　櫻井ふく、飯島みね、石引かね、
　　櫻井たき、染谷くま

明治八年十一月
常陸の国信太郡乙戸村
右村世話人
　藤四郎

(写真3)女人講中絵馬

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

風野瓢箪

(写真4)女人講中絵馬

奉納大典記念
昭和三年旧九月廿八日
稲敷郡茎崎村若栗女人講中

猪瀬せい、西村やす、成島てう、鈴木ます、
相澤てつ、野口あき、岡野とく、貝塚はな、
鈴木きく、西村まち、鈴木あき、西村はま、
山田はな、岡野しな、西村つる、西村とく、
西村きよ、西村つね、西村つる、相澤とく、
相沢ふよ、鈴木はる、山崎むら、大坪つね、
貝塚よし、大坪くま、秋田やす、飯本きい、
秋田ます、　秋田なか、石塚こと、貝塚あき、
倉持てる、大山さひ、大山みち、大山みち、
大山まき、相澤りう、飯本もん、飯本のよ、
飯本とよ、西村よし、塚原さと、新関みな、
山崎はつ、飯本たけ、西村あき、鶴見きち、
岡たか、西村つや、貝塚とく、山崎みね、
西村まつ、相澤うめ、横田りき

世話人　貝塚長助、貝塚藤吉、西村清次郎、
松澤栄吉、鈴木喜一郎

(写真5,6)親子犬の石像一対

平成 17 年 1 月 28 日建立
観音霊場巡拝満願寄進芳名
○○(14 名の住所と氏名が記
載されている。)
百観音満願
第 30 世清智代

親子の犬の眼がつぶらで可愛い。
見ていると思わず微笑んでしまう。
安産・子育てにあった石像である。

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

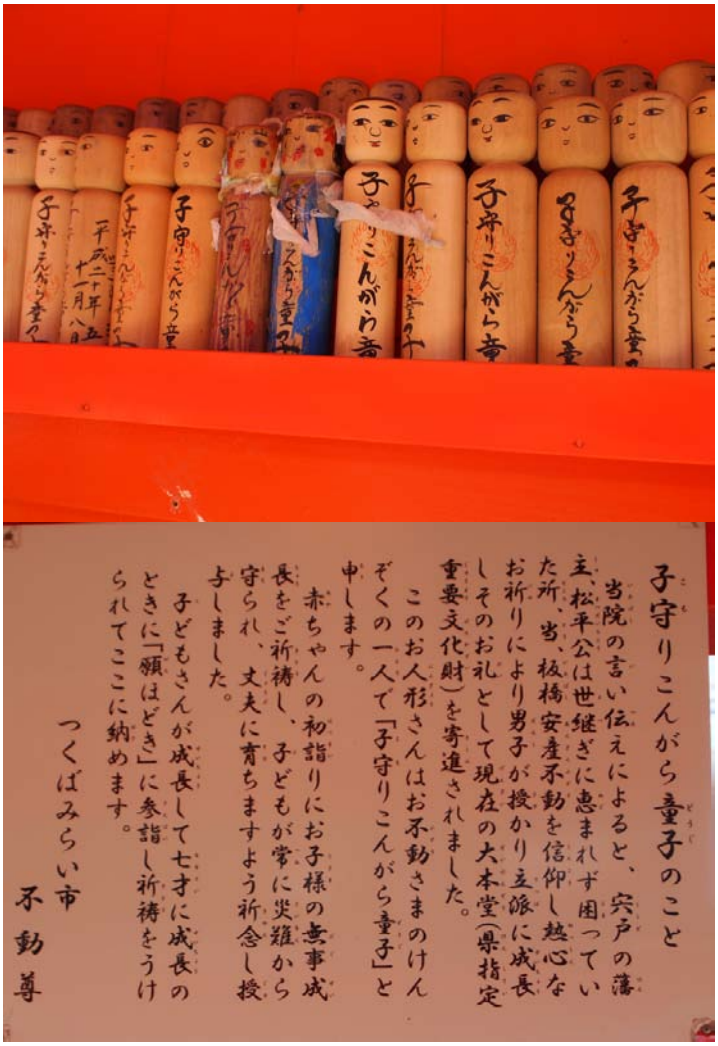
Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.

風野瓢箪

(写真7,8)親子犬の石像一対

（写真 5）の犬の親子の先代の石像で顔が欠けている。
建立の年代を調べると「明治三年十一月○○　上嶌村女人講中」と読み取れることから、女人講中による奉納であることがわかる。

(写真9)子守こんがら童子



子守こんがら童子の縁起

(写真10)子安観音

「平成 18 年 3 月 18 日建立
不動院第 30 世住職
大僧正　清智代」とあることから、新しいものであることがわかる。

Copyright ⓒ 2008-2050 A RED CRAYON All Rights Reserved.